

わが市 の市民協働



市
市

JR横須賀線や京浜急行で横浜方面から三浦半島の付け根にあたる逗子域に入ると、急に緑の山なみの起伏が連続して目に飛び込んできます。駅に降りると涼やかな空気が通り過ぎ、「ああ、逗子に帰ってきた」という何となくほっとした気持ちになります。空気が違う、さわやか、生き返る!! 生活様式が変わってもこの恵まれた

生活環境をいつまでも残したいというのは市民の共通の思いではないでしょうか。

逗子市では、高齢者の占める比率が22%余りと高く、〈街と家族の再生〉をテーマにした、NHKの朝の連続テレビ小説「わかば」で、村上山の造り酒屋のおばあちゃんの口癖でおなじみの「生きちよるだけで丸儲け」に共感する方も多いと思いますが、ボランティア作業を通じて楽しみながら地域への貢献と自然環境の保全と活用を図るために多くの皆さんが活躍しています。最近の市民と市が協力協働した事例では、先ず、久木九丁目名越緑地内に捨てられた、アスファルトやコンクリート塊などの廃棄物の片づけをはじめ



め、草刈、清掃をし、昭和二十六、二十七年頃までは耕作されていたといわれる、荒れ果てたかつての水田跡を復元したり、生き物調査や植物の調査などをして里地・里山の活用事業を進めている逗子市環境会議「まちなみと緑の創造部会」の会員と、ボランティア団体「虹の会」があります。更に来年度からアダプトプログラム制度による「里親」を募集し、継続して広く里山の活用を進めていく予定です。

次に身近な街区公園や緑地をアダプトプログラム制度により、地域の町内会や自治会、「逗子きのこの会」などの団体の皆さんと協働で十八箇所公園や、四箇所緑地の清掃美化活動を続けています。

三番目に、大崎公園や披露山公園では、平成十一年から毎年、逗子開成学園中学・高等学校の生徒さん達による清掃美化活動が継続されており、平成十四年からは更にボランティア団体「共生の皆さん」の支援を得て、草刈器械を使ったりしながら体験学習を進めています。

自分たちの地域の美化清掃活動を進める逗子ハイランド自治会、小坪区会、沼間グリーンヒル自治会など市民自治意識の高い自治会や町内会、団体も増えています。

それぞれが目標を定めて段取り、分担を決め、終了後の反省、課題、感想を整理し、評価して今後につなげるこ

とが大切であると思います。作業後の感想は、「自分たちでできた」、「きれいになった」、「大変だが楽しかった」、「親睦とふれあいができてよかった」、「自分でも役立てた」、「また参加したい。」等、たくさん寄せられています。行政だけでは達成できない多彩で開拓性のある公共サービスの創出、市民活動の弱点をカバーする為の支援者との連携を強化しつつ、地域間、行政の部署間で、バラバラなボランティア活動をコーディネートする体制を整えることが必要であると思います。

逗子市環境部緑政課



逗子開成学園の生徒による
清掃美化活動(大崎公園)